

第4回 精華町総合計画審議会 議事摘録

■日時・場所

- ・令和4年8月3日（水）13:30～15:30
- ・精華町役場 6階 審議会室

■内容

1. 開会

2. 委員紹介

出席委員の紹介

3. 議事

(1) せいかカフェラボ～まちづくり提言書～について

事務局 資料1について説明

川勝会長 せいかカフェ・ラボに参加されていた2人の委員から感想など、お願いしたい。

石田委員 テーマ別に参加した。各回での話し合いや第4回のまちづくりフォーラムの発表を通じて、参加者の皆さんが精華町を愛していると感じるとともに、素敵なまちに住んでいることを嬉しく思った。良い提言書ができたので、提言で終わるのではなく、その内容をすべて実現するような勢いで取り組みたい。

鷹羽委員 地域別に参加した。これまで精華町について考える機会はなかったが、地域の方と一緒に未来を考える機会を得ることができた。他の地域の方とコミュニケーションをとったり、新しい精華町を発見したりする機会となったが、若者の参加率が少なく、課題であると感じた。精華町のポテンシャルの高さを感じたが、もっと良くできると思った。

川勝会長 私も地域別と、第4回のまちづくりフォーラムに参加した。成果物の提言書は素晴らしい内容であるが、そこに至るプロセスが意義深いと感じている。

ワークショップへの参加を通じて、精華町は豊かな地域性を持ったまちであると確認できた。各地域には、その地域を大切にしている方、こんなまちにしたいとの想いを持っている方が多く、時間が足りないほどの議論が続いていたことが印象的で、参加者の方も楽しみながら参加していたと思う。

また、若手の職員がファシリテーターを担うなど、町を挙げての取り組みとなっており、次の総合計画を策定する際にも礎となるような非常に良いものをつくりあげることができたと思う。

世代を超えて色々な立場の方と議論する機会は貴重であり、価値あるプロセ

スとなっていた。それだけに、提言書の内容は重く、行政には、総合計画の策定に当たって参考としていただきたい。また、委員の皆さんにもこの提言書を参考に意見をいただければと思う。

(2) 次期総合計画基本構想（素案）について

事務局

資料2について説明

川勝会長

基本構想の8ページ、5つの将来像の候補について、また、基本構想の全体について、意見をいただきたい。

阿部副会長

将来像は、基本理念やこれまでの経緯を踏まえると①か③が良い。また、カフェ・ラボでの「つながり」というキーワードも入っている。

9ページの人口フレームの設定が成長型になっており、発展性を感じる③に合致しているように思う。一方で、①は7ページの基本理念に掲げられた「人とのつながり」、「自立」、「子どもたちが夢を持って輝ける」を踏まえており、人がつながる方法も、交流・連携によるものと示されている点が良い。また、「人が」という動的な表現である点からも、①の方がより適切だと考える。

基本構想に関しては、総合計画において人口フレームをどこまで示すことが相応しいか考える余地がある。人口減少の時代にある中で、設定が少し過大のように感じる。人口フレームを成長型にすると、今後、都市計画マスタープランの策定が難しくなる可能性がある。

石田委員

将来像は③が相応しいと思う。カフェラボを通じて、「人とつながる」ことが大切なキーワードだと感じた。また、今後も更なる発展を追及するという意味で、「未来をひらく」が良いと感じた。基本理念の「子どもが夢を持ち輝けるまちづくり」や「つながりを大切にするまちづくり」につながっていくと思う。

岡井委員

つながりがないと何も生まれないが、今の時代、コロナ禍もあって人とつながることが難しい。学校でも、子どもたちは色々と制限された生活を送っており、どのように人と関わっていくかということが重要である。そのような中でも、子どもたちが夢を持ち、精華町で生活したい、将来は戻ってきたいと思えることが大切だと思う。

学校とPTAでは、学校と地域が一緒になって、子どもたちの夢を育てていくことが大切であると考えており、そのためには、子どもと地域の方が触れ合う機会をつくることで、地域に協力してもらえるよう取り組むことが必要だと考えている。そのような思いから、将来像は①か③が良いと思う。

河合委員

将来像は①が良いと思う。デジタル化が進んでいるが、人と人とのつながりは交流・連携が生まれる様々なベースであり、人間である以上、変わらないものである。提言書の中にも「つながる」や同じ意味合いの言葉が多く、「人がつ

ながる」という言葉はその内容を端的で的確に表していると思う。

「夢をかなえる」という言葉は漠然としているが、意識や価値観が多様化する中で、一人ひとりの夢をかなえるということは、都市として究極の目標であり、また、誰ひとり取り残さないという SDGs の目標と通じるものがある。

「学研都市精華町」については、全国で精華町にしか名乗ることのできないものであり、学研都市を擁するまちとして、最先端技術や地域の文化を活用しながら、一人ひとりの夢を実現していくということで、①が精華町の思いを最も表していると思う。

北尾委員

人がつながることが一番大切だと感じており、身近な言葉に感じることから、将来像は①が良いと思う。

熱中症で近所の方が救急車で運ばれることがあり、その際には近所の方が 10 人ぐらい集まってきて、心配するような光景があった。それを見て、人のつながりは温かくて良いものであると感じた。

一方で、狛田地域では開発が進んでおり、自然が失われていくことに寂しさと不安を感じた。開発は町の発展に必要なだと理解しているが、自然も大切であると感じている。

曾東委員

将来像は、③の未来という言葉に惹かれた。

10 年後の将来像ということで、農業について考えると、10 年前は 60 歳だった人が、今は 70 歳、10 年後には 80 歳になるが、80 歳になると農業は難しく、後継者問題が出てくる。後継者や農地の維持も含めて考えると、1 年を通じて収入が安定する農業にする必要がある。

精華町は平地の農地が多く、環境は良いが、水稻以外をやっている人はほとんどいない。農業を継いだ時には、設備投資などが必要になり、続けられないことが多い。また、農業は生産物に価格転嫁することが難しく、物価高騰の影響を大きく受ける。農業がやりやすくなるよう、行政には支援・助成をお願いしたい。

10 年前と比べると荒廃農地も増えてきており、何か手を打たないと 10 年後にはますます増えてくると思う。基本構想には農業の記述が少ないので、10 年後の精華町を考えた時に、農業に関する内容を充実していただきたい。

高橋信委員

将来像は、技術や自然といった具体的なキーワードよりも、もう少し漠然とした方が良いと考え、①か③が良いと思う。

その中で、「未来をひらく」はハード整備を伴うイメージに捉えてしまう。一方で、「夢を叶える」は、子どもから高齢者までそれぞれの夢があり、一人ひとりの夢をかなえるというイメージがあり、町の将来像としては③がより相応しいと思う。「学研都市精華町」という言葉には、行政、住民、企業、団体のすべてが含まれていると思う。行政も含まれているのであれば、「人が」の方が受動的で、「人と」の方が能動的に感じた。

高橋朝子委員

将来像は①が良いと感じた。高齢者は自分の将来に不安を抱えているが、周りが自分に関心を持っていると思えるだけで、生きる気力が出てくるもので、人と人とのつながりが大切である。

住民同士がお互い同じ町の住民だと感じられるような仕組みをつくることができれば、子どもたちにも高齢者を大切にしようという気持ちが育つものと考えており、その点でも「つながり」が大切だと感じている。

都市構造に関連して、現在、狛田地域で開発が進んでいるが、一方、まちの中心である新祝園駅周辺に賑わいが少なく、精華町を訪れた方に良い印象を持ってもらえるまちになっていない。特に食事する場所や憩う場所が少ないため、商業施設を充実する必要がある。

鷹羽委員

自然を是非入れて欲しいとの想いから将来像は②が良いと思う。

私は精北小学校区出身で、現在、狛田地域では大規模開発により木が伐採され、昔からの自然環境が失われている。発展も大事だと思うが、自然を大事にするまちとして、それをベースにした将来像となることを期待している。

また、カフェ・ラボのキーワード「つながり」について、コロナ禍において人とのつながりや温かみの大切さを再確認することがあった。「愛される」という言葉の中に「つながり」のニュアンスも含まれるように思う。

竹内委員

将来像としては①が良いと思う。

企業誘致や新しい開発により、町が総合的に発展していくことは良いことであり、それに伴って夢や人とのつながりも良い方向に進んでいくと思う。

一方で、自治会の多くでは高齢化が進み、活動への参加が難しいことを理由に退会する方が増えており、自治会会員数の減少により活動がやせ細ってきている。独居老人や介護などの問題は福祉施策に任されているが、まちづくり全体として、高齢者が快適に生活できる環境づくりを位置付ける必要がある。

例えば、高齢になって、免許返納することになるとライフスタイルが激変し、場合によっては、引っ越しをせざるを得ない状況になるなど、ネガティブな方向に進んでしまう。高齢化をまちづくり全体で考えて、福祉以外の施策でも併せて支援をすることができれば、少子高齢化に対応した前向きなまちづくりができると思う。

谷口委員

将来像は1つに絞らなくても良いと思う。人とのつながりという部分で、①と③を併せて1つの柱とする。精華町の恵まれた自然環境と共生する意味を込めて、②と④を併せて1つの柱とする。最後に、学研都市としての機能を高めていく点で⑤を柱の1つとし、3本柱にするのが良いと思う。

14ページの土地利用の方向性について、「未来のゾーン」と「ふれあいゾーン」に関する質問がある。「未来のゾーン」は、今後、開発するゾーンという理解で良いのか。また、「ふれあいのゾーン」は、川沿いの自然とのふれあう場所という理解で良いのか。

事務局

「未来のゾーン」は、今後、市街化への編入を調査・検討するゾーンである。無秩序に開発するのではなく、例えば、山手幹線の沿道や狛田地域の周りが開発区域に囲まれた土地など、一定のまとまった土地で、市街化を検討すべきゾーンとして設定している。

「ふれあいのゾーン」は、山田川と煤谷川流域を挙げているので、親水空間として見えるが、もう少し大きく捉えて、「山のゾーン」と「まちのゾーン」、自然と市街地との境界線のゾーンとして設定している。市街地に近づくと、自然と農地との間に寺社仏閣が多く建っており、文化や新たなものが生まれるゾーンでもある。自然とふれあうゾーンであるとともに、都市と自然のふれあいにより新たな価値が生み出されるという意味も込めている。

寺本委員

将来像の①から④は、最後がすべて「学研都市精華町」で結ばれており、学研都市として発展することが前提となっている。それに対する我々、企業の役割としては、成長することで雇用や利益を増やし、税を納めることで町に貢献することであると考えている。行政には、学研都市の発展を前提としながらも、自然や人とのつながりのバランスをとる役割をお願いしたい。

また、都市として持続的に発展し、筑波と並ぶためには、他の都市との差別化やブランド化するような施策を打ち出すことが必要である。

将来像には達成すべき内容が書かれているが、計画は策定して終わりではなく、実現することが大切である。

将来像については⑤が良いと思う。

並河委員

将来像については、経済や産業の視点から考えると⑤、また、京阪奈新線の延伸についての記述がある③が良いと思う。

人口増加を目指さないと、徐々に衰退していくことになる。9ページに掲げた将来人口を目指すのであれば、自然や農地とのバランスをとりながら、住宅や企業用地の開発が必要となる。さらには、京阪奈新線を延伸するとともに、駅前開発や各拠点との連携を進めていくことが必要である。その際には、各拠点の周辺から開発するような方向で進めていく方が良いと考える。

古海委員

将来像について、人とのつながりにも惹かれたが、自然の中で人が育つというフレーズが良いと感じた。豊かな自然の中に、最先端の都市が創られたという両極端なところが精華町の特徴であると思う。その中で、人が生まれ、育て、高齢者になっても安心して年を重ねていくというところが、学研都市の次の段階でイメージする必要があると思う。

その点から考えると④が良いと感じた。

森本委員

「学研都市精華町」と聞くと、精華町の中の学研都市部分のみを指しているイメージが強く、精華町全域が学研都市であることが浸透していないように思う。そのため、学研都市を外すことも1つの案であり、⑤が面白いと思う。

人とのつながりが大切ということは当たり前のことであり、皆が必要だと思っているが、十分でないと感じるのでキーワードとして挙がっているのではないか。将来像にはあまり余計なものは入れずに「未来都市精華町」だけにし、必要だと考えるキーワードは説明文の中に記載すれば良いと思う。

また、この間、精華町では京阪奈新線の延伸に注力しているが、まずは学研都市の玄関口としている新祝園駅及びその周辺の充実が必要である。駅を降りた際に学研都市だと分かる、若しくは、新祝園駅と聞けば学研都市につながるように浸透する必要がある。町の真ん中に位置するという地理的条件だけでなく、精華町の中心、学研都市の玄関口に相応しい駅周辺として整備を進めることで、学研都市精華町の浸透にもつながり、新旧の融合にもつながるものと考えている。

事務局

欠席委員からの意見について、事務局から紹介。

○青井委員

将来像は、今後の計画を踏まえ、精華町的发展に向けて新しさや希望を感じるものが良いと思う。これを担うのは人であることを考えると、案①と③は「人」の「つながり」が起点となり、「未来」への「夢」につながることをイメージできると思う。

○上杉委員

まちづくりの主役は「人」であり、ワークショップの参加者からもそれを意識していることが感じられた。

将来像について、②から⑤は「町」が主、「人」が従といったニュアンスを感じたが、①は「人がつながる」、「夢を叶える」ことで、精華町が发展していくといった「人」が主人公となるまちづくりを最も表していると感じた。

また、「夢を叶える」という点から、「人」の中でも特に未来の精華町の担い手である子どもたちへの配慮も読み取ることができる。

○香山委員

将来像について、我々は研究機関の協議会であることから、⑤を推薦したい。

私の所属する NICT では、「けいはんな R&D フェア」等で「科学のまちの子どもたち」プロジェクトと連携している。研究機関の活動を住民、特に子どもたちに知ってもらい、将来的に精華町の研究機関で働きたいと思ってもらえるような取り組みを一層推進していただきたい。

○杉下委員

将来像は、①から④をまとめて1つの将来像にすれば、すべてが含まれていて良いと思う。

将来人口について、10年後、30年後と人口増の計画となっているが、人口増と自然には関係性がある。生産緑地に関する法改正があり、農地の宅地化が懸念されているが、乱開発とならないよう、発展させる地域と自然を守る地域を総合計画で定める必要がある。

交通インフラでは、京阪奈新線は必要であるが、鉄道は長期の取り組みにな

る。一方、道路は身近な進展につながるため、山手幹線や国道163号など、幹線道路を早期に開通させることが必要である。

諸施設のうち商業施設は民間事業者が主体となるが、民間は利益が不可欠となる。町の現状として、民間が出店を希望するような条件になっておらず、実行性のある計画や構想が必要であると思う。

土地利用の方向性について、後継者不足や荒廃農地の増加などの課題がある中で、「農のゾーン」の維持が課題である。また、条件や状況が変化してきており、総合的にゾーンの見直しを検討する必要があると思う。交通インフラを活かして、遠方から人を呼び込み、スポーツや大規模イベントが実施可能なゾーンを設定することで、まちの魅力づくりにつなげる必要がある。

総合計画全体として、町民に分かりやすい表現文章にしてほしい。

阿部副会長

11 ページでは、様々な自治体と隣接していることが分かる。これら周辺や学研都市の自治体と連担していくことも計画の中に記載されていても良いと思う。単独の自治体だけで考えていては、自らのポテンシャルを失いかねない。そのような視点を持つことも10年間のフレームとしては効果的であると思う。

森本委員

審議会の事務局をはじめとする町役場の職員からの意見も聴きたい。長い期間、役場に勤めている方もいれば、精華町在住の方もいると思うので、様々な立場からの声を聴きたい。

川勝会長

将来像への意見について、①が最も多く、次に③が多いという印象である。

ワークショップでも「つながり」がキーワードになっており、外せないという意見が多かった。また、人と人とのつながりは未来永劫変わらない普遍性を持つものであるという意見もあった。一方で、「つながり」の重要性は当然のことであり、将来像で言及せずに説明文の中で伝えるべきという意見もあった。また、自然とのつながりも重要であり、将来像の②が良いという意見もあった。皆さんの意見や高齢者に関する話を聴く中で、「つながり」には支え合うという意味も含まれているように感じた。世代を超えてつながることは、支え合うことにも結びつく、そのような意味も込められるように思う。

将来像①の「一人ひとりの夢を叶える」は、多様な価値観を社会全体で尊重することにつながり、SDGsの「誰ひとり取り残さない」に通じるとの意見には注目すべきものがある。町に様々な立場の方がいて、その多様性がまちの活力を生み、イノベーションにつながるように感じた。

学研都市の企業や産業からの視点では、企業が経済的な成長を遂げることで地域に貢献していく側面も大事であるとの意見や自然とのバランスをとりながら経済の発展を目指すべきとの意見があった。

各委員から様々な意見をいただいたが、方向性が全く違うという印象ではない。本日、この場で決定することはせず、私と事務局で相談の上、最終の案を考えたいと思うので、一任していただきたい。基本的には、最も意見の多かつ

た①を基軸にしなが、意見のあつた自然、科学、経済、技術などの要素を組み合わせる形で検討したい。

——（委員一同了承）——

基本構想に対する意見として、農業に関する意見があつた。基本構想のレベルで具体的な記述は難しいが、次回の基本計画のレベルではもう少し具体的な内容が示されるものと考えている。

また、大規模開発に対する意見もあり、住民の方の不安を取り除けるようなプロセス等が必要であると考え。開発による発展を考えるのであれば、それに対するケアも重要である。

今回は、本日の基本構想の審議内容を踏まえ、各分野の施策の方向性を示す基本計画について審議いただくことになるので、よろしくお願ひしたい。

4. その他

事務局

次回、第5回審議会は9月8日、木曜日の午後3時から開催予定で、基本計画の素案について審議いただく予定である。

基本計画はたたき案を作成中であり、町議会からの総合計画に対する提言書の内容を反映させた上で、素案としてまとめ、次回の審議会でお示ししたい。

以降のスケジュールとしては、第5回審議会の後、10月上旬から約1ヶ月間、パブリックコメントを実施し、町民の皆様から広く意見を募集する。その後、11月に予定している第6回審議会において、パブリックコメントの実施結果の報告とともに、総合計画の最終案をお示しする。なお、第6回審議会の終了後、川勝会長から杉浦町長へ答申をいただく予定である。答申をいただいた後、町議会定例会12月会議に基本構想、基本計画の議案を提案し、最終議決をいただければ策定完了となる。

5. 閉会